

2026年06月30日



# 2025年度 生産経営部会活動報告

.....  
**2026年JPPA総会**  
.....

生産経営部会部会長 / 石渕 大和（熊本興畜株式会社）

# 1. 生産経営部会とは

## 【目的】

経営規模の大小に関わらず、日本養豚の効率的な経営を模索し、国際競争力の観点から現状のコスト削減を研究し、その成果を会員に周知する

## 【具体的な活動】

- ・養豚実態調査の企画実施
- ・JPPA優良事例農場の選定
- ・建築・環境規制対応

など、経営に係る事項全般を協議します

## 【委員】

### 部会長

熊本県 石渕 大和 熊本興畜(株)

### 担当副会長

愛知県 山本 孝徳 (有)アクティブピッグ

### 委員

岩手県 橋本 晋栄 (株)アーク

秋田県 細川 拓也 (有)細川農興

千葉県 北田 好克 (株)北守

長野県 小川 哲生 タローファーム(株)

三重県 窪田 陽平 (有)クボタピッグファーム

## 部会活動

---



### 第1回生産・経営部会

2025年6月24日（火） JPPA会議室 + WEB



### 第2回生産・経営部会

2025年11月5日（水） JPPA会議室 + WEB



### 第3回生産・経営部会（実態調査打合せ）

2026年2月25日（水） JPPA会議室 + WEB



### 第4回生産・経営部会

2026年3月6日（金） JPPA会議室 + WEB

## 2. 養豚農業実態調査とは？①

・種豚の活用動向や繁殖成績のほか、毎年、時宜に合ったテーマを生産・経営部会で検討し、全国の養豚生産者を対象に、紙の調査票・WEBやExcelのフォームを用いて調査を実施している。

・調査結果は、報告書（簡易版・詳細版）を作成し、WEBにて公開中（簡易版は回答者に郵送）。

### 調査結果の概要

2025年（令和7年）養豚農業実態調査報告書

令和7年度の調査は、「道府県にある養豚生産者組織（以下「道府県養豚協会」という）」及び「（一社）日本養豚協会」が令和7年8月1日現在確認できている養豚生産者を対象に調査を実施した。

本年度調査の令和7年度調査は、令和6年度と同様に原則経営体単位で集計した。

なお、回答数は、設問毎の回答数を示しているため、複数回答の設問については、回答数が回答経営体数を上回る場合がある。また、同じ項目でありながら回答数、回答経営体数に差異が生じているのは、クロス集計（2つ以上の質問項目の結果を組み合わせることによってデータを集計）の場合、対応する項目の回答数、回答経営体数が異なることによるものである。

### 1 調査回答状況

令和7年度の調査は、道府県養豚協会及び当協会が令和7年8月1日現在確認できている2,071件の養豚生産者を対象（前年度調査において調査票を配布し回答がなくても廃業報告がなされなかった者を含む）に実施した。

回答が得られたのは523件（廃業を含む）で、全国集計結果の集計に使用したのは、廃業25経営体を除いた498経営体である。

（注）経営体数は、農場を複数有し複数の都道府県に所在する経営体については都道府県ごとにカウントした。ただし、当該経営体が複数県まとめて回答してまた場合は回答県の1経営体としてカウントした。

経営形態：全国（時系列比較）

| 経営形態B | 会社、施設、繁殖農場等の<br>飼育・販売農場である | 会社、施設、繁殖農場等の<br>飼育・販売農場ではない |
|-------|----------------------------|-----------------------------|
| 2025年 | 8.1                        | 91.9                        |
| 2024年 | 6.8                        | 93.2                        |
| 2023年 | 7.1                        | 92.9                        |
| 2022年 | 5.7                        | 94.3                        |
| 2021年 | 7.1                        | 92.9                        |

(%)

### 2 経営関係

#### (1) 経営形態

経営形態：全国（時系列比較）

| 経営形態A | 個人経営 | 法人経営 | その他の<br>法人経営 | 農産物同組合<br>法人の運営農場 | その他 |
|-------|------|------|--------------|-------------------|-----|
| 2025年 | 28.6 | 69.4 | 0.4          | 1.6               |     |
| 2024年 | 27.3 | 70.4 | 1.1          | 1.3               |     |
| 2023年 | 26.6 | 64.0 | 1.2          | 0.9               | 7.2 |
| 2022年 | 28.0 | 65.6 | 1.1          | 0.9               | 4.3 |
| 2021年 | 30.4 | 64.7 | 0.5          | 0.8               | 3.6 |

（注）本年調査より、養豚業で生計を立てていない研究機関や農業学校等のその他を対象外にした。

(%)

#### (2) 経営タイプ

経営タイプ：全国（時系列比較）

| 経営タイプ | N=  | 一貫経営 | 肥育経営 | 繁殖経営 |
|-------|-----|------|------|------|
| 2025年 | 478 | 84.7 | 12.6 | 2.7  |
| 2024年 | 456 | 84.6 | 12.1 | 3.3  |
| 2023年 | 636 | 85.1 | 10.5 | 4.4  |
| 2022年 | 598 | 86.0 | 9.5  | 4.5  |
| 2021年 | 711 | 84.1 | 10.3 | 5.6  |

(%)



こちらからご覧ください

## 養豚農業実態調査とは？②

### 目的

**わが国の  
養豚の現状を  
リアルタイムに把握**

経営改善・生産性向上に  
資するデータの取得

### 成果

**調査結果は  
国の指標として  
施策に反映**

養豚に対する政策の基本となる  
データの取得

**2026年度も実施します。回答にご協力ください！**

### 3. 優良事例調査とは？①

- ・ 2024年度から日本養豚開業獣医師協会（JASV）の協力のもと、JASVベンチマーキング（BM）を用いた優良事例調査を開始。

- ・ 管理獣医師と農場からエントリーシートをもって推薦をいただき、生産経営部会で審査・選定を行った。

- ・ 審査・選定については、BM成績だけでなく、「管理獣医師との共に農場の衛生や疾病、経営改善の取り組みを実施した特徴ある農場」を基準とし、農場への現地調査を実施した。

- ・ 厳正な審査の結果2025年度の優良事例には、有限会社睦美ファーム（福井県）が選抜された



(有)睦美ファームの皆さん

優良事例報告書は  
こちらからご覧ください



## 優良事例農場について

### 優良事例の情報公開等

優良事例に選抜された農場については、経営状況や衛生管理等について、さまざまな形で情報発信を実施しています。

#### 情報発信

- 現地調査報告書の公開（HP等）
- 青年部セミナーでの発表

#### 表彰

- 総会での表彰、記念盾などの授与

### 優良事例からのステップアップ

今年度は、優良事例調査の資料をもとに、中央畜産会の全国優良畜産経営管理技術発表会に推薦しました。養豚では久々の天皇杯獲得を目指します。

01

中央畜産会  
全国優良畜産経営管理  
技術発表会への推薦



02

天皇杯

## 4. その他の活動と2026年の活動予定

### 【その他の活動】

#### ①他団体等からの協力依頼に適切な委員を推薦

- 公益社団法人中央畜産会
  - ・令和6年度堆肥舎等長寿命化推進事業
- 一般財団法人畜産環境整備機構
  - ①凝集促進剤を含む固形分の堆肥化技術開発普及事業
  - ②高濃度畜産臭気脱臭技術開発普及事業
  - ③污水浄化施設最適管理支援技術実証普及事業
- 農林水産省
  - ①畜産経営高度化指導推進事業
  - ②スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA：イプサ）

#### ②明治大学への実態調査データ提供のご協力

### 【2026年の活動予定】

#### ①養豚農業実態調査の実施

- ・調査項目の精査、集計データの確認等

#### ②優良事例調査の実施

- ・優良事例選抜
- ・調査報告書の確認等

#### ③飼養管理技術向上実証等支援事業について

- ・暑熱対策等の生産性向上のため1/2補助付きリース事業

#### ④団体等からの調査等協力依頼に適切な委員を推薦

#### ⑤実態調査分析のためのデータ提供

- ・明治大学佐々木羊介先生への研究協力